

平成26年度第1回伊勢地区地域審議会会議概要

- 1 開催日時 平成26年7月29日(火)午後7時05分～午後8時25分
- 2 開催場所 伊勢市役所東庁舎4-3会議室
- 3 議事内容 (1) 辞令交付
(2) 委員自己紹介、事務局紹介
(3) 正副会長の選出
(4) 第5期地域審議会について
(5) 情報交換
- 4 出席委員 中村基記委員、櫻井治男委員、森本幸生委員、村田典子委員、山中一孝委員、前田政吉委員、北村和也委員、馬瀬清美委員、中居登巳男委員、竜田和代委員、山川一子委員、佐久間泰子委員、岡本忠佳委員、小久保吉久委員、埜崎蓮香委員、野村誠一委員
- 5 欠席委員 杉田英男委員、廣義明委員、浦田宗昭委員
- 6 出席職員 情報戦略局長、企画調整課長、企画調整係長、企画調整係員
- 7 議事概要

(1) 辞令交付

情報戦略局長から出席委員へ辞令交付。

(2) 委員自己紹介、事務局紹介

(3) 正副会長の選出

事務局 地域審議会を設置することに関する協議の規定により、正副会長は、委員の互選により定めることとなっている。ご協議をお願いする。

委員 事務局に一任したい。

事務局 これまでの経過もあることから、第4期に引き続き、櫻井委員に会長を、浦田委員に副会長をお願いするという案はいかがか。

(委員から「異議なし」の声多数あり。)

事務局 それでは、会長に櫻井委員、副会長に浦田委員と決定させていただく。

(4) 第5期地域審議会について

事務局より、資料「地域審議会について」及び「地域審議会を設置することに関する協議」に基づき、地域審議会の役割、会議の開催方法、これまでの伊勢地区地域審議会の審議経過、第5期地域審議会において諮問を予定している事項等について説明。

(5) 情報交換

(委員)

地域の行事がなくなる懸念の声が上がっている。行政効率を優先することによって、小さなコミュニティのつながりが失われることに注意する必要があると思う。

(委員)

伊勢市全体の連帯感の醸成、小さなコミュニティの維持、この二つの視点で協議を行っていくことが大切であると考えている。

(委員)

小俣地区で仕事をしていると、小俣地区は子どもが多く活発であると感じる。一方、伊勢地区は子どもが少なく、地域のつながりも薄いと感じる。

(委員)

新しく集合住宅が建つ地域は自治会加入率が低い。これらの地域はごみ処理の問題が生じて自治会の影響が及びにくいいため、解決が難しい状況がある。また、小学校の統廃合によって生じる地域事情の変化にも、対応していく必要がある。

(委員)

全国一律に少子高齢化、そして核家族化による自治会加入率の低下が生じている。今後、魅力ある自治会活動をしなければ自治会は住民に疎外されてしまう、という危機感も持ちながら、まちづくり活動をしていく必要がある。

(委員)

地縁のつながりで自治会を維持してきた面がある。今は少子高齢化と核家族化が進んでいる。田園そのものが観光資源という見方をすれば、農業の担い手が減って農地が荒れているのは大きな問題である。

(委員)

合併した当時と比べると現在の状況は大きく変わった。特に少子高齢化によって、中心市街地の住民が減っている。今後新たに生じる問題に対応していく必要がある。

(委員)

若者が結婚したい、子育てしたいと思える環境づくり、例えば女性の労働環境の改善などが大切であると思う。まちづくりや防災などの様々な分野についても、女性の視点を取り入れて考えてもらいたい。

(委員)

合併後、同じ分野で活動する団体同士で統合しようとしたが、結局は統一見解が持たず、発展的に解消した状況である。地域の文化・歴史を大切にして、個々の団体で良い活動をつくり上げていくにはどうすればよいかを考えたい。

(委員)

朝の通勤時間、津や松阪に比べて伊勢は電車を降りる人が少ないと感じる。働く場所が少ないことが理由だと思われるが、企業を外から誘致するのは難しいため、今持っている資源を活用して働く場所をどう作っていくかが重要である。

(委員)

高齢者が楽しく人生を送るにはどうすればよいかを考えている。生涯学習の講座に参加して思うのは、参加費用の上昇で参加者が減っていることである。高齢者の経済的な問題を何とかしたい。また、生涯学習の機会をもっと充実させてもらいたい。

以上